

『しあわせの村』へ陶芸作品を設置・寄贈する

コース・専攻：総合芸術コース 美術・工芸専攻

グループ名：陶板夢工房

メンバー：神例 邦明、庄田 公哉、宮本 順子、米谷 武芳

テーマの趣旨： KSCのモットーである「再び学んで 他のために」を実践し、学んできたことを最大限に活かして、装飾技法による陶芸作品を制作し、公的な場所へ設置・寄贈することで、訪れる方々に楽しんで頂きたいとの思いでスタートした。

取組み内容：①寄贈先としては、学び舎のある「しあわせの村」を第一候補と考え、村内の候補場所探しをメンバーで実施した。4カ所程度の候補場所をリストアップし、「しあわせの村」の管理を行う「こうべ市民福祉振興協会 緑地運営課」へ提案を行った結果、「ふれあいの門」前広場の柵への装飾陶板の取付けについて了承が得られた。

②まず、装飾陶板のデザイン検討を行い、『しあわせの村』の四季を動植物で表現』することとし、表現方法は、「レリーフ技法」（＊下地に文様を貼り付ける技法で、“貼花技法”とも言う）とした。

③次は、色見本を制作してレリーフに使用する色粘土・顔料の選定、陶板の収縮率測定、テストピース制作によるレリーフ表現の確認などを行った。

④これらを踏まえて装飾陶板の本制作を開始した。陶板サイズが大きくなったことで、制作途中に反り、ひび割れなどのトラブルが発生し、制作が一筋縄でいかないことを実感した。

陶芸授業の折には、指導講師からトラブルの解決に向けた適切なアドバイスを頂き、それを本制作手順に取り入れて実施した。また、サポーターの皆さん等から頂いたアドバイスや情報も制作手順に入れるようにして、本制作の過程を『陶板制作の標準手順書』として作成した。

⑤完成した装飾陶板が下の写真（合成）である。左から順に、春夏秋冬を2枚ずつの装飾陶板で表現した。

おわりに：寄贈した装飾陶板が、長期間に亘り訪れる人々の目に触れて、少しでも“なごみ”になることを希望している。



「ふれあい広場」の装飾陶板全景（合成写真）